

第5学年 特別の教科道徳 指導案

日時 平成30年6月1日(金) 第6校時
場所 越知町立越知小学校 5年教室
対象学年 5年生 37名
指導者 教諭

1 主題名 かけがえのない命 D 生命の尊さ

2 資料名 『命の詩 — 電池が切れるまで』
(出典 道徳5 きみがいちばんひかるとき 光村図書)

3 主題設定の理由

(ア) 価値について

内容項目D-1(19)は、「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」である。中学年では、内容項目「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。」から、高学年では、「生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであること。」を理解し、生命を尊重する態度を育てる内容項目に発展する。

生命尊重とは、命を「かけがえのないもの」として大切にし、「つながりのあるもの」として父母や祖父母、祖先から受け継がれ、次の世代へと続いていく尊さを実感することである。命は一度失ってしまうと元には戻らず代わりになるものもない、唯一無二の存在である。自他の生命を傷つけたり、脅かしたりしてはならず、最も大切にしなければならないものである。生きることのすばらしさや喜びを大切にすること、人の生き方や考え方にふれることで、生命を大切にしていこうとする姿勢につながると考えられる。

(イ) 児童の実態・教師の願い

本学級の児童は明るく、友だちに対してやさしく声をかけたり、男女仲良く助け合いながら活動したりといった様子が見られる。これまでに、交通安全教室や起震車体験、その事前事後指導など、命について考える場面があり、その度に命に関する話し合いを行ってきた。これまでの学習から、命が大切なものであることや、多くの人の支えによって自分という存在があることにも気づいている。しかし、一方では、その気はなくても「うざい」「消えろ」という言葉を、軽々しく言葉にしてしまう児童も見られるため、その言葉について話し合いを行うこともあった。そこで、本教材を通して、生命の尊さについて取り上げ、どのように懸命に生きていくのか考えたり、自他の生命についても深く考えたりさせたい。

(ウ) 資料・指導観

本教材は、11歳で亡くなった宮越由貴奈さんの詩「命」と、由貴奈さんのエピソードを紹介した解説文で構成されている。「命」は、生命のかけがえのなさや、命を無駄にする人に対するメッセージがこめられている詩である。生きるためのエネルギーとして、命を電池に例えている由貴奈さんは、命と電池の違いにも気づく。そして、命あるかぎり精いっぱい生きなければならないということを詩を通して力強く訴えている。詩から伝わる、由貴奈さんの命に対する思いから、自分がどのように命を捉え、生きていこうとするかをじっくり考えさせたい。そこでまず、命に関する児童のアンケート結果を紹介し、命に対する自分たちの捉え方を把握させたい。そして、宮越由貴奈さんの病名や意味、院内学級などについて資料を用いて分かりやすく説明する。その後、「①由貴奈さんの書いた詩を読んで心に残ったこと(理由) ②命と電池の違い ③精いっぱい生きる生き方」の順で考えさせ、日々、死と向き合いながらも懸命に生きる由貴奈さんの気持ちを捉えさせたい。そして、自分の命を大切にすること、他者の命も大切にすること、自分の命を大切に思ってくれている誰かがいること、一生懸命生きることで自分の命をまっとうできるということを深く考えさせていきたい。さらに、これまで自分が命をどのように捉えてきたかを振り返りながら、これからどのように生きていくのか考え行動できるようにするきっかけとしたい。

また、本時における評価の視点を明確にすることで、自分ならそのことをどのように思うか、どのように考えるか、自分のこととして考えを深められるようにしていく。

4 ねらい

宮越由貴奈さんが書いた命についての詩やエピソードを通して、命とはどのようなものか考えさせ、自他の生命を大切にしたい思いや、限りある命を懸命に生きようとする判断力や心情を育てる。

5 教科及び教育活動との関連

指導の場	活動名（教材名）	道徳観点から見たねらい
道徳	アンパンマンがくれたもの	東日本大震災のときに人々の心を癒した「アンパンのマーチ」を通して、つらさや弱さを乗り越え、夢や希望など喜びのある生き方をしたいこうとする判断力や心情を育てる。
理科	人の誕生	生命の巧みさや不思議さ、神秘さについて学習することで、命のつながりや命の尊厳を大切に考える心情を高める。
学校行事	避難訓練	防災に対しての心構えについて知ること、災害時に安全な行動を取り命を守ろうとする態度を養う。

6 準備物 ・資料 ・ワークシート ・アンケート結果

7 学習指導過程

○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ※評価の観点
導入	1. アンケート結果を見て命に対する捉え方を知る。	○皆に聞いた「命」に関するアンケートの結果を紹介します。	・事前に行ったアンケート結果を見ながら、価値についての課題意識をもたせる。
		命について話し合い、これからの自分の生き方について、考えたことを伝え合おう。	
展開	2. 「命の詩—電池が切れるまで」を読んで話し合う。 (1) 由貴奈さんの詩を読んで心に残ったこと (2) 電池と命の違いについて (3) 「精いっぱい生きる」という意味について (ペア学習)	○第1発問 由貴奈さんの書いた詩を読んで、一番心に残ったのは、どんなことですか。 ・病気に立ち向かっている ・命は取り替えられない ・命を電池に例えている ・精いっぱい生きている ○第2発問 「でも—。」の後、由貴奈さんが言いたかったことは何でしょう。 ・命を大切にしよう ・簡単に命を捨ててはいけない ・命は交換できない ◎第3発問 「精いっぱい生きる」とは、どういう生き方をすることだと思いますか。 ・命を大切にすること ・一生懸命生きること	・由貴奈さんの生き立ちについて説明をした上で、読み聞かせをする。 ・心に残った場面と感想を交流し、一人一人の感動を大切にすること。 ・自殺の原因になるようないじめをしたり、自分で死を選んだりしてはいけないというメッセージに共感させる。 ・一人一人ワークシートに書かせた後、短冊に書いて共有し、全体で感じたことを話し合う。 ・命が大切だと感じた経験があれば発表させる。

	3. 自己の生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人も大切にすること ・一日一日を大切にすること ・周りの人に感謝すること <p>○今日の学習を通して、「命」についてどんなことを考えましたか。これから精いっぱい生きるためにどのようにしていきたいか、自分の思いを書きましょう。</p>	<p>※精いっぱい生き抜くことの大切さについて向き合い、考えが深まっているか。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入であげたアンケート結果も意識させ、これからの生き方について考えさせる。 ※これまでの自分を見つめ、自分の命や精いっぱい生きることについて考えているか。(ワークシート)
終末	4. 児童の書いたワークシートを読む。 5. 心のノートを見て価値を深める。	<p>○「命」について考えたことを紹介します。</p> <p>○命の尊さについて書かれた文章を読みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを聞くことで価値への理解を深める。 ・心のノートの P.64～65 をパワーポイントで写す。

- 8 評価
- ・精いっぱい生き抜くことの大切さについて向き合い、考えが深まっているか。(ワークシート・発言)
 - ・これまでの自分を見つめ、自分の命や精いっぱい生きることについて考えているか。(ワークシート)

9 板書計画

生命の尊さ

命の詩—電池が切れるまで

かけがえのない命

宮越 由貴奈さん

写真

- ・子どものガン 重い病氣
- ・入院（病院の中にある学校）

命について話し合い、これからの自分の生き方について、考えたことを伝え合おう。

一番心に残ったこと

- ・病気に立ち向かっている
- ・命は取り替えられない
- ・命を電池に例えている

でも…

電池・・・取りかえられる

- ・大切に使うと長もちする
- 命・・・取りかえられない
- ・命を大切にしよう
- ・簡単に命を捨ててはいけない

「せいいっぱい生きる」とは

- ・一生けん命
- ・あきらめない
- ・何事も全力で
- ・友だちも大切に
- ・周りの人に感謝する（家族・友だち）
- ・一日一日大切に過ごす

自分・友だち・周りの人の命を大切に、せいいっぱい生きよう。

「せいいっぱい生きる」とは

短冊に書いた児童の考えを仲間分けて整理させる。